

The Histories of Ise 行政文化資源の利活用

平成11年度～平成24年度にかけて編さん・刊行された『伊勢市史』全8巻の文化資源としての史資料の利活用を図る取組です。

* TEAM DATA *

メンバー数：2名
活動場所：伊勢市
実施主体：伊勢市文化振興課
担当教員：齋藤 平（文学部）
活動年度：R02, R03



月別活動

(10月) 伊勢市史の読解と内容の理解

(11月) 伊勢市文化振興課様との打合せ

1年の活動まとめ・考察 (成果と課題)

伊勢市史の活用方法を議論しています。伊勢市史の課題に、伊勢市史を制作したがそれを市民の方が活用することが少ないことがあります。この課題を解消するための方法を探っています。そして、昨年候補に挙げた、伊勢市史に記載されている内容を簡単にし、絵本にするという案を形にするべく、どの部分を取り上げるのか具体的に話を進め、近世編の「宇治山田の会合所のお仕事」と、「帯刀一件」についての話を読みました。

「宇治山田の会合所のお仕事」は、会合所に務める役人の仕事内容を記したものです。江戸・京都への出張の様子や1年間の定例行事をまとめて絵本にしようとしたのですが、時代考証が難しいといった意見がでました。

「帯刀一件」は、一部の身分の人が刀を所持することが禁止され、それに反発が起きた時の話です。しかし、身分制度の説明が子ども向けにして難しいとの意見がでました。

これらの部分を読み、話し合いを重ねた結果、古市界隈の芸能を絵本にすることにしました。理由は、話の内容が比較的わかりやすいこと、絵で表現しやすかったからです。古市は、神宮参拝客でにぎわい、娯楽の催しが多く存在しました。中でも、当時珍しかったインコ・オウムなどの鳥を扱っていた、興行師である鳥屋熊吉の実際の話絵本にする予定です。内容は、古市に初めてゾウがやって来た様子を描きます。絵本を作成するにあたって、工夫したところは、登場人物の髪形や服装を当時と同じ様子に再現した点です。資料を収集するのに苦労しました。

活動を通して学んだこと

伊勢市史は簡単に読めるものではないことから、絵本などによる動機づけで、親しみをもってもらうことが大切だということがわかりました。途中まで作成したので、ご覧ください。

江戸時代の終わりごろのことです。
ここは伊勢の古市。

たくさんの参宮客でにぎわっています。

今度ここにゾウが来るそうです。今はまだ松阪の愛宕町というところにいるそうです。

西源：「知ってるかい？今度ここにゾウっていう生き物が来るらしいぞ。」

平太：「知ってるよ！」

藤之介：「何のことだ？ゾウっていったいなんだ？」

西源：「ゾウってのは、ものすげえ大きい動物だって聞いたぜ。なんでも牛よりも大きいらしいぞ。」

藤之介：「ほうほう。」

平太：「他には、耳が大きくて、鼻が長くて、賢いらしいぞ。」

藤之介：「とんでもない生き物だな。それは楽しみだ。」

そして、ついに伊勢の古市にゾウがやって来ました。

(続く)

このように絵本の作成に取り組んでいます。今年度中に絵本の完成を目指しています。そして来年度は、この絵本をどう活用していくのか、議論を重ねていくこととします。

実施主体からのコメント

伊勢市文化振興課
ご担当者様

活動の成果を形にできればよいと考えています。

成果物 / 制作物

担当教員より

文学部 齋藤 平

打田さん、谷川さんの積極的な活動は素晴らしいと思います。